

苫小牧市

東開文化交流サロン

多様性が寛容を生む居場所
図書館と福祉の融合

「ふるさと納税を何とかしろ！」
指令で職員奮起

苫小牧市と社会福祉法人ゆうゆうが
タッグを組んで地域に根ざした活動

7月3日、令和4年オープンした苫小牧市東開文化交流サロンの取り組みについて行政視察を行いました。

障がい者、認知症の方、孤立している方、子ども、高齢者など様々な人が一緒に活動し、ゆるやかな社会とつながる応援になるような場所となっています。

本を読みながら利用できるパーラー東開のメニューは、障がい者の方が作ったパンや米を利用し、札幌のパフェ佐藤が監修したパフェも提供されています。

こどもの第3の居場所として、困難に直面している（生活保護世帯、就学援助世帯、ひとり親世帯、共働き孤立、虐待、不登校、発達障害など）小学生や中学生



▲本を通じて人と人とのコミュニケーションが生まれることを目指した絵本ホール

の子どもをサポートしています。

本町には児童相談所がないことから、こどもの第3の居場所の機能も、これから建設される福祉施設に組み込んでとを考えます。

この視察で、本町がこれから行う「ふくしのまちづくり」が改めて見えたように感じました。

三笠市

令和4年ふるさと納税
空知管内1位 17億円（和寒町 3千万円）



▲三笠市はエネルギー事業の取り組みに対して、多額の企業版ふるさと納税を受けています

苫小牧市への視察の後、ふるさと納税の取り組みについて、三笠市に行政視察を行いました。

平成20年からふるさと納税を始めて、令和4年、現在の市税係長が、「ふるさと

タマネギ10kg、三笠市史 これは返礼品にならないと思う物が返礼品になる

と納税をなんとかしろ！」との指令を受け、前年度より12億円アップの寄付額を集めました。

本町と同じ内陸に位置し基幹産業は農業で、米（玄米）、メロンの返礼品が人気です。

三笠市史、お墓参り代行（社協で実施）、スキー場リフト券も返礼品に組み込まれ、全部で約300種類の返礼品があります。

少子高齢化が進み、ふくしのまちづくりで多額の事業費が掛かることや、住民サービスの質を落とさないこと、地域経済活性化を考えると研究を重ね新たな取り組みを進め、ふるさと納税の寄付金アップに取り組んでいただきたいです。